

森づくりと人づくりの 共通価値を創造する

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 松井 勅尚

● 担い手の育成はいつから？

森林文化アカデミーが開学して十八年。森と木に関わる仕事の担い手の育成に関わってきました。入学する学生たちに毎年聞き続けてきたことがあります。「いつから森や木の仕事を目指したのか？」「何がきっかけになったのか？」

岐阜県の森林率は81%。この資源を『宝の山』へとつなげることができる人材育成が急務であります。そこで、すべての子供たちが、産まれ育った地域を誇りに想い、古里を愛し暮らしていく人づくりと、森林率90%を誇る郡上市の森づくりをつなげることを目的とした試みを郡上市の幼児を対象に始めました。

● きっかけは中津川…

二〇一三年度。中津川市環境生活部の依頼で『幼児向け環境教育カリキュラム構築事業』の監修を請け負いました。木のスプーンづくりを年長児に対して地域のプ

レーヤーと保育士が協力して実践する取り組みです。その実践から3年が経過したある日、一通のメールを頂きました。

「三月の卒園式で卒園児が自分が将来なりたい職業が書いてありました。その中で『大工さん』と記した子が4〜5人いました。かつて、肥後の守(簡易な折りたたみ式刃物を使っていた頃は当然のように『大工さん』希望がいましたが、ここところ久しく見かけませんでした。園の取り組みとしては3年経ちました。そんな中で『大工さん』が夢として出てきたことにとても感激しました。」(中津川市北野保育園主任保育士)

この知らせに私はスプーンづくりという体験が、担い手を育成するための可能性を秘めていると感じました。

● そして、郡上で新たな試み…

二〇一八年度。清流の国ぎふ地域提案事業「郡上森づくりと人づくりを結ぶ木育研修事業」が、採択されました。この呼

びかけに公立も私立も参加している郡上市内の「郡上市保育研究会」の賛同を頂き、地域提案事業として申請して頂けたのです。

教材は、スプーンよりも食事で出番の多い箸に変更し、まずは年中児の担任保育士が研修を受けその後、担当しているクラスの園児に教えます。年中児が自分で箸をつくる実践は、岐阜県内や愛知県で監修し成果を挙げています。

「木から命を頂いているということが親子で実感できました。」

(愛知県大口町年中児保護者の感想)

● ヤマザクラの箸づくり

そして、八月から保育士の研修が始まりました。

今回注目して頂きたい事は、地域の林産業に関わる方がこの事業に参画することです。意見交換を繰り返しながら林産業に関わる方々にも無理のない参加方法を模索中であります。



郡上森林組合との打ち合わせ風景
手前は次年度目指したい年長児が自分でつくる郡上産の杉の箱椅子。



はちまん幼稚園を会場にして開催した保育士研修風景
毎日多忙な保育士さんが一堂に集まれる日は、8月中でたった1日しかありませんでした。

郡上のすべての子供たちと森の将来のために林産業者と保育士が協力する機会が箸づくりなのです。「子育ては女性任せ」「林業は男の仕事」ではなく、切っても切り離せない関係として、人づくりと森づくりをつなげるための大切な価値があるはずです。

十一月からは、いよいよ各園で年中児の箸づくりが始まります。

木や森の仕事を「憧れの仕事」として目指してくれる子どもたちが出てくれることを願っています。